



# よみがえる学び舎

## 特集

少子化などの理由で閉校になった学び舎があります。かつて子供たちの声が響き渡っていた学び舎の表情はどこかさびしそう。しかし、その学び舎を再び生き生きとした表情にした人たちがいます。今号では、生まれ変わった学び舎を特集します。

新しい集会施設に生まれ変わった旧京津畑小に子供たちもVサイン



## CONTENTS

- 03 特集  
よみがえる学び舎
- 08 いちのせき夏のまつり
- 10 熱戦再来！  
北東北インターハイ
- 12 まちのトピックス
- 14 市民のひろば  
ふれーふれークラブ  
／笑顔でGOOD
- 16 博物館だより
- 18 健康コーナー
- 22 図書館だより
- 23 暮らしの情報
- 28 っておきいちのせき

## COVER STORY

表紙  
僕らも主役！  
一関のあつい夏



猛暑が続いた7月末から8月前半。ふるさと一関は、各地域で祭りが催され、活気と熱気に包まれた季節となりました。通りには、七夕飾りやあんどんが飾られ、大人も子供も街へ繰り出します。みこしや山車が街を練り歩き、大輪の花火が夜空を焦がします。工夫を凝らしたもち料理に舌鼓を打ち、老若男女たくさんの踊り手が観衆を魅

了したふるさとの祭りの数々。懐かしい顔がそろう、いつもの笑顔が集うと思い出されるのはあの、心躍る風景や心弾む音色、小さいころに慣れ親しんだ掛け声ではないでしょうか。さまざまな趣向が凝らされたひとときの熱狂が過ぎれば、静かな日常へ。ふるさと一関はもうすぐ実りの秋を迎えます。(8・9ページに関連)

## イチ、ニのサンで元気発信！ 「一」関市、「二」戸市、「三」沢市で連携

名前に数字の入った自治体が連携して、東日本大震災からの復興に取り組む東北地方の元気を発信しようと「イチ、ニのサン元気な東北市長対談会」が8月9日、当市で開かれました。

「イチ」、「ニ」、「サン」の掛け声で東



指で市名を示す勝部市長(中)と小保内二戸市長(左)、種市三沢市長(右)

北の元気を内外にアピールして、観光振興などの取り組みに弾みをつけようと勝部市長の呼びかけで実現した。対談会には、勝部市長、二戸市の小保内敏幸市長、青森県三沢市の種市一正市長が参加。それぞれの地域づくりに取り組んでいる団体などの代表者も参加しました。

対談会では、3市長が市の特徴などを紹介し、勝部市長は世界遺産に登録された平泉の文化遺産と連携した情報発信を強調。小保内市長は、市内各地域の宝を生かしたまちづくりの取り組み、種市市長は米軍基地との交流によるまちづくりに力を入れていることをPRしました。

そのほか、地域づくりを実践している団体などの代表者による事例紹介もありました。

今後の活動の展開について3市長は、イベントへの相互参加や子供たちの交流などのアイデアを提案。今後、幹事会など事務レベルで具体的な活動内容について話し合っていくことを確認しました。



3市の連携を確認した対談会